

【園の教育目標】

- ・明るく元気な子
- ・友達と楽しく遊べる子
- ・よく考えて行動する子

【令和6年度の園評価より】

- ・公開保育・エピソード記録を行うだけにとどまらず、公開保育後どのように環境を再構築し、取り組んだのかを学び合う機会を作っていく。
- ・子どもたちが安全に楽しく生活できるようにルールや環境等、職員、保護者、園児が共通理解し、安全に生活する意識を育てていく。
- ・ノンコンタクトタイムでは、一人一人の発言や行動から、成長に繋がるようなことを話題にできる環境づくりに努める。
- ・幼保小連携は、園全体として取り組む。

4段階評価

○保育者

☆関係者

●課題

観 点	短期目標	自己評価	保護者評価	評価及び意見の概要
保育・幼児教育の充実	健康な体づくり	3.7	3.9	○子どもの興味や育ちに合った遊びを考え、4月から継続してサーキット遊びや園外保育、戸外遊びなどを動かして遊ぶ時間を設けてきたことで、体を動かす楽しさを感じ、意欲的に取り組むようになった。 ○体づくりを意識したサーキット遊びを取り入れ、子どもたちが楽しみながら体を動かす中で、体のバランスやコントロールする力が身についた。 ☆未満児の先生は見守り、幼児の先生は見本となる、年齢によって子どもとの関わりかたも変えているように感じた。 ☆自分なりの目当てに向かって頑張る姿が見られ、できた時の笑顔が心地よさを表していると感じた。
	社会的発達	3.7	3.7	○異年齢交流など仲間と一緒に活動する時間を設けることで、仲間と一緒に遊ぶ楽しさを感じるようになり、相手とやり取りして遊ぶ姿が見られるようになった。 ○「よいことみつけ」の場や異年齢交流を通して、仲間を思いやる心や仲間のよさを見つける心が育った。 ○必要な時に保育者が相手の気持ちを代弁したり、子どもの気持ちに共感したりする保育を心がけることで、子ども達は、自分の思いを話し、トラブルを解決しようとする姿が見られるようになった。 ☆朝、友達同士声をかけ、嬉しそうに手をつないで歩く姿を見てよい友達関係を築いていると感じた。 ☆友達が困っている時にどうしたらよいかを教えてあげたり、できるまで待っていたりする姿が見られ、思いやりの気持ちが育っていると感じた。 ☆近くで年上の子の姿を見ることで、自分もできるようになりたいと憧れをもったり、年下の子に教えてあげたいと思ったりすることができ、異年齢交流が活かされている。
	精神的発達	3.5	3.8	○やりたいあそびに夢中になって取り組めた。新しいこと、難しいことにも根気よく取り組めるような声掛けをし、「失敗しても大丈夫」と繰り返して取り組むようになった。 ○未満児で分散保育を行ったり、幼児の発達に合わせた活動を考えたりすることにより、子ども達の主体的に遊ぶ姿や、集中して遊び込む姿につながった。 ○身近な自然物が豊富な園なので、遊び方を知らせていくと、子どもも興味をもち遊びに取り入れる姿があった。 ☆園で頑張っていることを家でも練習し、よりうまくできたことを喜んでいる姿が見られた。 ☆園児が興味をもって取り組めるように環境が整えられていたり、園児一人一人の願いや思いを大切にしたりする保育ができています。
子育て支援の充実	地域との連携 保護者の連携	3.5	3.7	○毎日、子どもの成長や興味に合った内容の読み聞かせや歌あそびを行い、楽しんで、発言や語彙を増やせるよう心がけた。 ○統合保育アドバイザーから子どもの特性に応じた支援の在り方について指導を受けたり、保育者間で子どもへの関わりや援助の方法について話し合ったりして、一人一人に応じた援助を考えながら保育できた。 ☆先生は、できたことに対してしっかり褒めてくれるので、「ここまでできない」ではなく「ここまでできるようになった」と前向きな姿でいられる。 ☆読み聞かせのボランティアで来園した時に、どの子も本の世界にしっかり入ってきてくれ、子どもらしい反応もある。 ☆地域と関わる行事などを通して、顔や名前を知り、親しみをもつきっかけづくりになっている。 ●子どもの特性や支援のあり方、保護者支援などを職員全員で話し合う機会があると、様々な意見が出て保育や支援につなげていけたのではないかな。
資質・専門性の向上	研修・研究	4.0		○園内研や研修に参加して学んだことを自身の保育に取り入れたい、保育を振り返ったりして環境の再構築ができた。それが子どもの成長にもつながった。 ○研修報告を行うことで、自らが受講した内容をより深く学ぶ機会となった。 ●研修報告はその都度行い、早期にみんなで学び合えるとうい。 ●公開保育後に改善した保育を見合ったり、話し合ったりすることがなかった。 ●園内研修でエピソード記録の話し合いを職員間で行うと、その子の共通認識となるのでしっかり話し合いをしていきたい。

【次年度に向けて】
 ・保育者も子どもも遊びやすい環境の整備について期ごとに見直す機会を作っていく。
 ・個の特性に応じた支援ができるよう、援助、環境作り、保護者支援について語り合う場を確保する。
 ・公開保育後、学んだことを活かし、その後再構成した環境や取り組んだ内容等を見せ合い、話し合う機会を設けて更に学び合えるようにする。
 ・個々に学んだ研修は、そのつど報告し、他の職員の学びに活かせるようにする。
 ・安全面に関しての保育内容などを知ってもらい、保護者にも意識してもらるように写真配信などを行う。